

アクセシビリティ確保に関する取組

株式会社シュアルタ

障害者による情報取得等に資する機器等の開発及び普及の促進
並びに質の向上に関する協議の場 第3回

会社（シュアルタ）概要

- 主な事業
 - ソフトウェア開発、コンサルティング
 - 技術分野：ウェブ、プログラミング言語Python
- NVDA日本語版の開発
 - Windows用スクリーンリーダーを無料で配布
 - 2022年調査 日本で55%
- 動画制作：NVDAでアクセシビリティチェック
- ウェブアクセシビリティ基盤委員会(WAIC)
 - 2023年 会員組織、ワーキンググループ主査

代表（西本）紹介

- 大学教員（京都工芸繊維大学、東京大学 2011年まで）
 - 耳で覚えるキーボード「ウチコミくん」開発
 - 福祉情報工学研究会（電子情報通信学会）幹事
 - 文部科学省 科研費「情報福祉の基礎」
- 2012年 NVDA日本語チーム設立（2022年まで代表）
 - NVDA日本語版の開発、改良、普及啓発
- 2018年 広島県広島市で法人設立
 - シュアルタの由来は家族の名前

NVDA = NonVisual Desktop Access

- 2006年 オーストラリアの全盲プログラマーが開発をはじめ
- オープンソース = 無料 + 自由
- 「晴眼者と同じコストでパソコンを利用できる」理想
- グローバルIT企業、世界盲人連合、日本財団などが支援
- 世界のボランティアが開発や翻訳に参加
- 毎年2回～4回のバージョンアップ
- 「アドオン」で機能を拡張
- NVDA日本語版は日本語の音声と点字に対応

視覚障害者から見た問題

- ウェブサイトでやりたいことがある
- うまくできない
- なにが悪いのか理解できない、説明できない
- スクリーンリーダーの不具合として報告する
- 報告すれば直ると期待する
- 可能なら視覚障害者用アプリを作ってほしい

スクリーンリーダーが向き合う現実

- 基本ソフト(OS)
 - 毎年のようにバージョンアップ
- ウェブブラウザ
 - 数週間ごとにバージョンアップ
- ウェブサービス
 - 提供者は1日に何回でも更新できる
- ウェブに関わる人、組織、ツール、利用者
 - 仕様の作成、情報提供、実装の公開、使い方の習得
- 他者の不備を繕う = 支援技術の価値向上とは限らない

目指す世界

- 基本ソフト(OS)
 - 基盤を提供
- ウェブブラウザ
 - 仕様に基づいて実装
- ウェブサービス
 - アクセシビリティ達成基準に適合
- ウェブに関わる人、組織、ツール、利用者、支援技術
 - それぞれの立場で努力、立場を超えてお互いに協力
 - 新しいものが最初からインクルーシブ

オープンなコミュニティの可能性

- 複雑な調整が必要
- 迅速に行う必要
- チームで取り組む
- コミュニケーションの無駄をなくす
- 時間や場所を超えて自律的に行動
- ツールとルールを整備

アクセシビリティ確保のために

- いろいろなリスクとチャンスがある
 - セキュリティ
 - テレワーク、自動化、生成AI
 - VR, MR, 空間コンピューティング
- いろいろな取組が可能・必要・支援を求めている
 - 支援技術以外のプロダクトやサービス
 - 行政、経営者
 - 市民活動、ボランティア、当事者
- 妥協せず向き合っていく

NVDA 障害者団体や行政との連携

- 障害者団体（広報、講習会、寄付、問い合わせ対応など）
 - 日視連、日本視覚障害者職能開発センター
 - サイトワールド、全国盲ろう者大会、ATACカンファレンス
 - 各都道府県の団体、特別支援学校、パソボラ団体
- 行政機関など（情報提供、紹介など）
 - 総務省（みんなの公共サイト運用ガイドライン）
 - デジタル庁（ウェブアクセシビリティ導入ガイドブック）
 - 筑波技術大学（研究用アドオン開発）
 - 放送大学（情報社会のユニバーサルデザイン）
 - 国会図書館（読書環境の整備）